

様式第2号（第9条関係）

会議録

|              |  |   |
|--------------|--|---|
| 会議の名称        | 令和7年度廃棄物減量等推進審議会第1回会議  |   |
| 開催日時         | 令和7年11月17日（月）<br>開会 午前10時 閉会午前11時30分   |   |
| 開催場所         | ふじみ野市役所本庁舎3階A301会議室  |   |
| 出席した者        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物減量等推進審議会委員<br/>森下会長、横田副会長、伊藤委員、大平委員、湯川委員、鈴木委員、松原委員、富田委員、神木委員、塩野委員、新倉委員</li> <li>・ふじみ野市</li> <li>・事務局（環境課）<br/>坂本課長、齋藤係長、長谷部主事、青木主事</li> </ul> |   |
| 会議の議題        | <p>1 会議</p> <p>(1) 開会</p> <p>(2) 会長あいさつ</p> <p>(3) 議題</p> <p>一般廃棄物処理基本計画の進捗状況<br/>リチウムイオン電池の適正排出および回収<br/>と処理について</p> <p>(4) その他</p> <p>(5) 閉会</p>                                       |   |
| 会議の公開又は非公開の別 | 公開   |   |
| 会議の非公開の理由    | —  |   |
| 傍聴人の数        | —  |   |
| 会議の内容        | 別紙のとおり   |   |
| 会議資料         | 別添のとおり   |   |
| 事務局          | 市民活動推進部 環境課  |   |
| 議事の確定        | 確定年月日  | 令和7年12月6日   |
|              | 記名押印<br>又は署名   | 役職名<br>会長 森下 英美子 <span style="float: right;">印</span> |

別紙

発言の要旨

| 発言者  | 発言の要旨   |
|------|---|
| 森下会長 | 議題「一般廃棄物処理基本計画の進捗状況」について、事務局から説明をお願いします。  |
| 事務局  | ○配布した【資料1】に基づき説明  |
| 森下会長 | 説明について何かご質問等ありますか。  |
| 森下会長 | 食品ロス削減に向けて、フードドライブなどの取り組みはあるか。  |
| 事務局  | 地域福祉課と協力してフードドライブを行っている。食品を預かる窓口としては、市役所本庁舎2階の地域福祉課や、大井総合支所1階のほか、市役所の1階案内においても受け付ける仕組みをとっており、回収量の増加に向けて取り組んでいる。 |
| 松原委員 | 組成調査結果では直接廃棄量が多いことがわかったが、野菜や生ものはフードドライブの対象外となるため、そういう要因が結果にも出ているのではないか。   |
| 事務局  | 生ものはフードドライブの対象外であるが、環境課では1530運動も実施している。例えば調理における食材の使い切りや、冷蔵庫内の食材の見直しなどを呼び掛けている。こういった運動もとおして食品ロスの排出抑制に力を入れている。   |
| 森下会長 | 議題「リチウムイオン電池の適正排出および回収と処理」について、事務局から説明をお願いします。  |
| 事務局  | ○配布した【資料2】に基づき説明  |
| 森下会長 | 例えば膨らんだリチウムイオン電池が手元にあるなど、市民はいざその状況にならないと自分事として捉えないのではないか。そのため、周知も工夫して取り組む必要があると感じている。                           |
| 横田委員 | 産業まつりで環境課の職員がリチウムイオン電池の排出方法を市民に丁寧に説明している姿を見た。イベントで啓発するのはとてもいいと思う。   |

| 発言者  | 発言の要旨   |
|------|---|
| 事務局  | 小さな事故でも火災につながる可能性がある。事業者からもアドバイスがあればぜひいただきたい。   |
| 富田委員 | リチウムイオン電池専用の回収ボックスを設けるのはどうか。  |
| 事務局  | 現状も小型家電の回収ボックスを設置しているが、今年度中にいくつかの公共施設にリチウムイオン電池の回収拠点を設ける予定である。  |
| 湯川委員 | リチウムイオン電池を預かる際は絶縁処理をしているのか。   |
| 事務局  | 対面で預かる場合は職員が絶縁処理をして一時保管している。  |
| 伊藤委員 | そもそもリチウムイオン電池がどのような製品に使われているのかわからない。市民への周知を強化すべきでは。   |
| 森下会長 | 今はおもちゃなどにも使われている。多くの市民に知ってもらえるよう、イベント会場での周知など、引き続き取り組んでほしい。   |
| 神木委員 | 環境センターへ視察に行ったことがある。危険物やもやさないごみなど、10人くらいの作業員が手作業で分解等を行っている。これは大変苦労する作業だと感じるとともに、作業員には感謝しかない。そういった現場の様子を市民にも理解してもらうべきではないか。 |
| 森下会長 | 危険物に限らず、そういった実状と作業員への感謝が伝わるような広報も取り組んでほしい。  |
| 松原委員 | 動画にして、教材として使ってもらうのも良いと思う。   |
| 事務局  | 小学4年生の環境センター見学時に、環境センターやごみの分別に関する動画を視聴してもらっているが、リチウムイオン電池の啓発動画を新たに作成している。作業風景の様子は現状入れていないが、作業員の負荷軽減にもつながるので、今後検討していく。     |

| 発言者   | 発言の要旨   |
|-------|---|
| 森下委員長 | 説明するよりも動画のほうがわかりやすいので、感覚的にもわかるような内容のものを期待している。  |
| 横田副会長 | 話は変わるが、シルバー人材センターの職員が集めた落ち葉がよくまとめて置いてあるのを見かける。落ち葉の排出量は多いのか。落ち葉は再利用できる資源になると思う。  |
| 事務局   | 時期にもよるが、落ち葉がもやごみの全体を占めているわけではないと感じている。越谷市では落ち葉を堆肥やチップ化にしている取り組みがあり、当市でも資源が循環できる仕組みができればとは考えている。   |
| 大平委員  | 乾電池袋を廃止しないことについては理解した。この袋はリチウムイオン電池やその他の電池にも使えるのか。  |
| 事務局   | 乾電池袋の廃止しない件については、当時は無駄なものは省くという考え方で廃止を進めていたが、リチウムイオン電池は世の中でも危険視されているのも事実である。ごみの収集員にとっても乾電池袋は目立つ色のため、排出に気付きやすいという声があった。透明な袋でも「電池」と明記のうえ出すことができるので、その周知は引き続きしていく。また、リチウムイオン電池や、その他の電池にもこの袋を使ってもらって構わない。 |
| 神木委員  | ごみの集積所がカラスに荒らされて、散乱している様子を見かける。私の自治会では、市で配布しているネットを使うとともに、水を入れたペットボトルをネットの周りに配置することや、ブルーシートを上からかけるなどの対策をすることで被害が減少している。管理に手間はかかるが、その分被害が減るので、街をきれいにするための一つの手法としてこの場で共有する。                             |
| 森下会長  | 最後に一言ずつご意見や感想をいただければと思う。  |
| 伊藤委員  | ふじみ野市は月曜日から金曜日まで毎日収集があるが、市町村によっては週に数日の地域もある。そういった地域と比べると、分別が細かいことで毎日ごみ出しをするのは手間に感じるかもしれない。  |

| 発言者  | 発言の要旨   |
|------|---|
| 大平委員 | 外国人と共生していくために、外国語のごみの分け方の冊子を作っていることは分かった。言語数も5か国語程度かと思ったが、多くの言語を載せていて良いと思う。   |
| 湯川委員 | ごみの分別が多いということは、その分焼却せずにリサイクルにつなげているということだと思う。市民の分別の意識が高いからこそできている取組みである。  |
| 鈴木委員 | 分別が多い件については湯川委員と同意見である。リチウムイオン電池の発火状況の話があったが、具体的な商品の見当はついているのか。乾電池袋はもう少しサイズを大きくしても良いと思う。  |
| 事務局  | 具体的な商品まではわかっていないが、スプレー缶などが原因の事例もある。   |
| 新倉委員 | リチウムイオン電池の話の中で火災に関する内容があったが、埼玉県としても様々な事業者と接する中で、やはり火災ゼロはなかなか難しい課題である。そのため、いざというときにどう対応するかが非常に重要である。   |
| 事務局  | 環境センターは比較的新しい施設のため、自動消火の設備が整っているが、もしこの設備がなければ環境センターの運営だけでなく、日々のごみ収集もどうなっていたかわからない。特にごみピットはもやすごみを一時保管する場所であるため、小さな発火が大きな火災につながる可能性が高い。そのような中で、リチウムイオン電池の動画の中に自動消火設備の話を入れるかについては、課内でも検討を重ねているところである。理由としては、自動消火の設備があるから分別しなくとも大丈夫と捉えられないためであり、さらにはごみ収集中の発火事故も防ぐためである。 |
| 神木委員 | 来週、地域でごみゼロ運動があり、地元の小学校へ親子での参加を促している。ポイ捨ての抑制に向けて小学生のうちから教育することで、きれいなまちづくりにつなげていきたい。  |
| 富田委員 | 集積所の環境整備に取り組んでほしい。新しい住宅地については新規に集積所を設けると思うが、昔からあるところは例えば電   |

| 発言者          | 発言の要旨   |
|--------------|---|
|              | 柱にネットを括り付けているところもある。設置を許可しているとはいえ、適切な場所に設置できるよう環境改善に取り組んでほしい。   |
| 事務局          | 住宅密集地ではどうしても避けられない課題もある。ごみの分別を十分に配慮しない方と共に用で集積所を使うことに不安を訴える方や、設置場所が希望に添えない場合など、様々なご意見を日々頂戴しており、職員が改善や対応に努めている。  |
| 塩野委員         | 不法投棄の問題について、道路から少し奥まった場所が狙われやすい。一つでも不法投棄があると、次から次へとごみが増えてしまう。地主さんも、他人のごみに対応するのは大変な苦労だと思う。そのような中で警察官の絵や警察署名が入った看板は有効であると感じた。   |
| 松原委員         | リチウムイオン電池の動画について、発火や火災のリスクはもちろん、市民が現場で対応している人に対して感謝の気持ちを抱けるような内容も取り入れてはどうか。具体的には、回収作業に携わる方への感謝の思いを込めた内容を反映させるとともに、その活動の背景には多くの方の努力と支えがあることを伝えることで、より深い理解が得られるのではないかと思う。 |
| 横田委員         | ガラス瓶の回収について、瓶の色ごとに分けて排出しているが、回収後はどう処理しているのか。分けずに出している人もいるようだが、分けるべきなのか。   |
| 湯川委員<br>鈴木委員 | 回収先でも色ごとに分ける処理はしているが、事業者の負担軽減のために、排出の時点で分別に協力してほしい。   |
| 森下会長         | その他の連絡事項について、事務局から説明をお願いします。  |
| 事務局          | 廃棄物減量等推進審議会は年に一度、会議の場を設けているが、来年度は「一般廃棄物処理基本計画」の見直しおよび策定の年となる。委員の委嘱期間は令和8年9月30日までとなっているが、計画の策定は年間をとおして行う。そのため、基本的には今の委員の皆さんで引き続き進めていきたいと思っているので、ご理解いただければと思う。            |

| 発言者   | 発言の要旨  |
|-------|--|
| 森下会長  | 他にないようであれば、今日の会議はこれで終了とさせていただきたいと思います。閉会については、副会長よりお願ひします。 |
| 横田副会長 | 『令和7年度ふじみ野市廃棄物減量等推進審議会第1回会議』<br>を閉会いたします。<br>ありがとうございました。  |